

# 春の例大祭

四月二十六日、稲田神社で春の例大祭が行われ、今年はお出雲大社千家尊祐宮司をお迎えし、五穀豊穡を祈りました。

また、これを機に出雲大社千家宮司様に名誉宮司に就任して頂き、地元では稲田神社保存会が組織され、稲田神



木山禰宜による祭典の様子

稲田神社は、八岐大蛇神話に登場する素盞鳴尊の妃・稲田姫をお祀りしてある由緒ある神社で、昭和七年に故小林徳一郎氏によって社殿造営、遷座された神社です。

しかし、社殿が建立されてから七十年以上が経過していることもあり、特に本殿拝殿の屋根や柱、境内の荒廃が進み、大規模な補修が必要となり、町内の有志で稲田神社奉賛会を設立し、奥出雲町に縁のある方に呼びかけ、浄財を募り整備を図ることになりました。

社を後世へ伝えていこうという機運が高まっています。今後、奥出雲町の貴重な文化遺産、観光資源として整備が急がれます。

## 「鬼の舌震」川開き安全祈願祭

奥出雲町の景勝地「鬼の舌震」で大型連休の初日となった四月二十八日、奥出雲町観光協会関係者、来賓など約四十人が出席して、川開き安全祈願祭が行われました。玉日女神社で神職が祝詞を奏上しお払いをした後、岩田町長や千原議長らが玉串を捧げました。そして、大馬木川に御神酒を注ぎ川を清め、ヤマメ百匹



ヤマメ放流の様子

## 黄色いじゅうたん 尾原ダム・菜の花まつり2007

尾原ダム建設予定地の林原地区で四月二十二日、「菜の花まつり」が開催されました。今年三月に町道八代三沢線が供用開始し、大型バスでの会場へのアクセスも容易になり、地元住民はもとより、下流域の松江市、出雲市などから約千数百人が訪れ、会場約一・三ヘクタに咲き誇る菜の花畑を大勢の家族連れが散策して楽しみました。尾原ダムを地域に開かれた

ダムとして多くの人に知ってもらい、流域住民が一体となってダム事業による恩恵を理解し、交流を深めることを目的として、行政機関やNPO法人斐伊川くらぶなどの実行委員会により開催され、今年で八回目となります。イベント会場では、温泉こども神楽や仁多乃炎太鼓が披露されたほか、尾原ダム周辺で採れたそば粉を使った手打ちそばや山菜の天ぷらなどが



手打ちそばを作る地元布勢地区の皆さん

ふるまわれました。また、建設予定地のバスツアーや国土交通省のPRコーナーもあり、来場者はダム事業の理解を深めていました。

## 見ごろのカタクリ満開

# 船通山でカタクリ登山

みどりの日の四月二十九日ヤマタノオロチ退治の舞台地として知られる霊峰・船通山（標高一、一四二・五メートル）でカタクリ登山が開催されました。



横田山の会によるカタクリの説明の様子

生が見ごろを迎え多くの登山者を和ませました。この日は、横田山の会による紙芝居でのカタクリの説明があり、ユリ科の多年草であるカタクリは、開花するまでに七年以上の歳月を要することや自然の中で生き残っているための様々な特徴などが説明され、多くの登山者が興味深く見入っていました。

町内外から参加した約三百人は、鳥上滝コース、亀石コースの二つに分かれて鳥のさえずりを楽しみ、自然保護レンジャーや自然公園指導員の説明による山野草などの説明を受けながら、約二時間をかけて思い思いのペースで山頂を目指しました。山頂は、約千五百平方メートルに広がる薄紫色のカタクリの群

また、五月末まで鳥取県と合同で盗掘パトロールが実施され、県自然環境課から採取防止と自然環境保護を呼びかけるチラシが配られました。

## 横田でシャクナゲ祭り

シャクナゲが見ごろを迎えた五月六日、商工会横田支部やつちやらの会の主催で第八回しゃくなげ祭りが開催されました。むらくもの丘に植えられたシャクナゲは満開であり、多くの雨にもかかわらず多くの観

光客が訪れました。役場横田庁舎前で行われたイベント会場では、ヤマタノオロチ吹奏楽団による演奏やよさこい踊りなどが披露され、お楽しみ抽選会などのゲームもあり大型連休最後を楽しみました。



ヤマタノオロチ吹奏楽団による演奏

## 奥出雲たたらと刀剣館

# 日本刀鍛錬実演・抜刀実演を開催

本町の日刀保たたらでは、世界で唯一、量産の直接製鋼法により日本刀の原料となる和鉄「玉鋼」を生産し、全国の刀匠に供給しています。そのたたら製鉄や日本刀の資料館である奥出雲たたらと刀剣館では連休中、日本刀（美術刀剣）の展示、小林日本刀鍛錬場一門による日本刀鍛錬実演が行われました。

また、五月四日には高知県土佐抜刀道連盟から樋口功氏を迎え抜刀実演も行われまし

た。日ごろ目にすることがない真剣での抜刀実演に、町内外から訪れた見学者は張り詰めた雰囲気の中、真剣なまなざしで見守っていました。



樋口氏による抜刀実演